

植物防疫情報第2号

平成27年7月2日
岡山県病害虫防除所
岡山県植物防疫協会

ブドウべと病の防除を徹底してください

岡山県病害虫防除所による7月1日の県南部巡回調査では、発病程度は低いものの、ブドウべと病の発生圃場率が100%と平成(28.6%)より高くなっています。

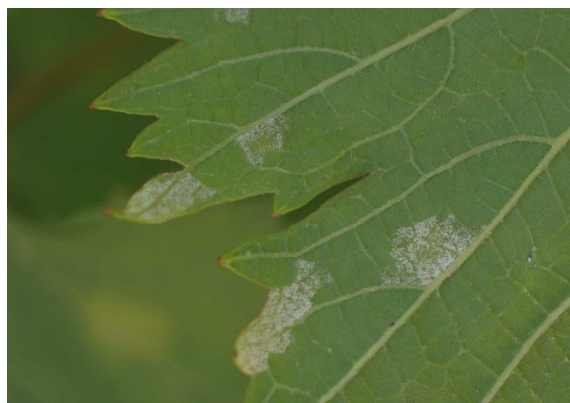
広島地方気象台による向こう1か月の予報(6月25日発表)によると、気温はほぼ平成並、降水量は平成並か多いとされており、降雨が続くと発病程度が高まる恐れがあります。圃場をよく観察し、防除を徹底してください。

(防除上の参考事項)

- (1) 本病原菌は被害葉で越冬し、5～6月の降雨時に葉裏の気孔から侵入して発病する。感染後、発病までの潜伏期間は7日前後である。
- (2) 袋掛け後の無機銅剤(ボルドー液など)の散布は有効な防除対策である。
- (3) ストロビルリン系殺菌剤(アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル)を使用したにもかかわらず、べと病の発生が多い圃場では、耐性菌の発生が疑われるので他系統の殺菌剤を使用する。
- (4) 近年では、平成23年にも発生圃場率が90.9%と高かったが、防除の徹底等により被害は抑制された。
- (5) 農薬の使用にあたっては、果実の果粉溶脱に対する注意や収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとる。



‘ピオーネ’の葉表の症状



葉裏のべと病菌(白いカビ)



幼果(小豆大期)の症状



幼果(大豆大期)の症状

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。